

平成29年 (2017年) 3月7日 (火曜日)

データ・テックお客様交流会 SRで事故削減に効果 今後はIoTに注力

車載器メーカーのデータ・テック(本社・東京、田野通保社長)は二月十四日、都内で同社製品「セイフティレコーダ(「SR」)の利用者を集めたお客様交流会を開催。ユーザーなど約百六十人が参加した。

交流会では全車にSRを導入するサカイ引越センターの山野幹夫常務が取り組みを紹介。同社は平成十七年の導入以来、急ブレーキや急加速、アクセル操作の安定性などの五項目を点数評価する機能を活用し、四十点未

満のドライバーへの指導を徹底。運行管理者と安全運転指導書を使った面談といったSRに基づく指導を進め、「事故率が導入前の半分に低下した」(山野常務)。

二年前には「SR Connect」を導入し、得点には表れない潜在的な事故原因を分析。優良ドライバーも危険な動きがあることが分かり、ドライバーと連動した安全教育を進めてい

る。今後は危険運転箇所
のデータを集めたハサ
ドマップ作成や、移動と
作業時間のデータベー
化による生産性向上にも
取り組むとした。

リアルタイム 動態管理実現

また交流会では、ドコモ・システムズと共同開発した新サービスも紹介。「docoですcaエ」に通信型ドライコを追加。高速通信とクラウドシステムにより、事務所からリアルタイムの映像取得が可能。ドライコにはNFC(近距離無線通信技術)カードリーダを内蔵し、免許証や社員証から各ドライバーの運転状況を把握できる。データ・テックの診断技術

を使い、ドライバーの日常運転を評価する。データ・テックの田野社長は「スマートフォン(「スマホ」、高機能携帯電話)と連動し、車両情報やインターネットにアップする仕組みをつくる」とし、車載器によるIoT(Tモノ)のインターネット化に注力する。(熊田 安那)